

効果から見る観葉植物

観葉植物で空気清浄化となります。植物には二酸化炭素を吸収して、酸素を排出するという基本的な生命活動があります。それに加えて空気が乾燥した空間では、葉から出る水分の蒸散量を増やします。さらに湿度が高ければ抑えるといった働きをしてくれるので、この場合室内の空気が快適に保たれてストレスなく過ごすことができます。学校や施設などに使われていたアスベストや、建築材料から発生するホルムアルデヒド・トリクロロエチレンなどの揮発性有機化学物質は、人体にかなりの悪影響があります。観葉植物には、ホルムアルデヒドなどの化学物質を除去する力があります。観葉植物自体が、有害物質に汚染されることはありません。観葉植物は、呼吸することで有害物質を取り込みます。この場合根から排出して微生物に分解してもらうのです。観葉植物とはリラクゼーション効果を持った優れた空気清浄機といえますね。(ながやす)



今月の便り

球根の保存

ここ数年北海道でもダリアが再び人気ですが、ダリアは原産地がメキシコやグアテマラなど温かいところなので耐寒性がありません。北海道では冬に球根を掘り上げて保存する事が必要です。5℃以下では球根が腐ってしまうので気をつけましょう。秋に葉色が変わってきたら茎を下から5センチぐらいのところで切り、掘り上げ土を落としてよく乾かします。ダンボール箱の大きさに合う大きなビニール袋の中に籾殻やピートモスなどを入れ、その中で保存します。温度は5～10℃ぐらいに保てる場所に春まで置いてください。最近では北海道で栽培できるようになったさつまいもも、ダリアの球根と同じようにしておくとも長期保存が効くので冬も楽しめます。ぜひ機会があれば挑戦してみてください。(きのした)

ユーチャリス

ユーチャリスはヒガンバナ科の中央～南アメリカに約10種類が分布する球根植物です。その中でもよく栽培されているのはアマゾンリリー（アマゾンユリ）の和名をもつグランディフロラ種〔E. grandiflora〕で日本には明治時代の中頃に入ってきたと言われていました。ギボウシズイセンの別名もあり、草姿をギボウシ、花をスイセンになぞらえてつけた名前ですがユリでもギボウシでもスイセンの仲間でもありません。花は径5cm～6cmで数個の蕾をつけ色は純白で先端が6枚の花びらに分かれます。正面から見るとスイセンによく似ていますがとてもいい香りがします。寒さには弱く10度以上が生育温度で気温や水分などの環境要因で花芽を付け、基本的に開花は不定期です。20℃～30℃の気温が3週間程度続けば花芽が作られ、18℃以下では花芽を作らず生長を続けるとされます。色彩館では鉢植えで育てています。

(いとう)

もみじ今昔（2）

日本人の心に深く根ざした秋の「もみじ」ですが、現代のような植物の名前ではなく、布地を染めるときに染料から色を揉みだす様子から、草木の葉が色づく動詞「もみつ」、その後「もみち」、「もみぢ」となり、葉が黄色や赤に色づく様を表す言葉でした。黄色く染まる草木を詠んだ歌が多く、

秋山の 黄葉（もみち）を茂み 迷いぬる～（柿本人麻呂）

また、当時は色付いた小枝を手のひらに乗せて眺めたり、髪に挿すことで願望を叶えようとしたそうです。平安時代の古今和歌集で、六歌仙のひとり在原業平が、斑鳩（いかるが）の里を流れる竜田川を描いた屏風を眺め、

ちはやぶる 神代もきかず 竜田川 唐紅に 水くくるとは

山々の赤いもみじが絞り染めのように水面に映し出される様を詠いました。これは後世の小倉百人一首(13世紀)にも選ばれた「もみじ」のひとつです。春の桜と秋のもみじが散ることは、四季のメリハリがあってこそ生れる一瞬の美であり、それを貴ぶ日本特有の文化と美意識なのかもしれません。しかし、いずれも貴族など上流階級での話であり、生活が苦しい一般庶民にはこうした余裕はありませんでした。モミジ類を含む様々な植物と移植、挿し木などの園芸的な技術が広く普及するのは江戸時代になってからといわれています。（かわはら）

観葉植物について

秋も深まりほとんどの種類が室内への取り込みが終えた事でしょう。植物によりますが、日当たりの良い窓辺で管理し葉焼けしそうな植物は、レース越しの窓辺が良いでしょう。水遣りなど、乾かしぎみに管理し表土が乾いてから 1 から 2 日待って水をたっぷりと与えます。根腐れを防ぐため、受け皿に水をためないように注意してください。肥料は必要に応じて、薄い液肥などが良いでしょう。室内でもアブラムシやカイガラムシが発生することがあるので、見つけ次第防除をします。最近注目され始めている、鉢植えで楽しむ「ビカクシダ」。コウモリランとも呼ばれる葉の形のユニークさが注目されています。ビカクシダは鉢植えの苗が数多く出回るようになりました。板付にして吊り下げなければ栽培できないと思われがちですが、鉢植えのまま育てることができます。2～3年に1回、1～2回大きな鉢に植え替えましょう適期は5～6月です。（たかはし）

青年の木と幸福の木

「ユッカ（青年の木）」と「ドラセナマッサンゲアナ（幸福の木）」の木は、見た目が似ていることから混同しがちな観葉植物ですが、樹形もよく似ていてパッと見では違いがよく分からない方もいるとは思いますが、よくよく見てみると葉に大きな違いがあります。ドラセナは葉にストライプ模様が入っており、葉自体は上に向かって伸びていますが葉に厚みがないので葉先は垂れ下がっています。逆にユッカは葉が肉厚で上に向かって葉先までスッと伸びています。青年の木とも呼ばれているのでなんとなく若々しい印象のある植物です。葉先は鋭く触れるとケガをしますので安易に触ったりしないようにしましょう。それぞれの育て方に若干の違いがあります。ドラセナ（幸福の木）はアフリカの熱帯地域原産の植物なので、寒さに弱いのが特徴です。適正温度は15℃以上です。10℃以下になると葉が傷んで変色する恐れがあるので、特に冬場は暖かい室内で栽培するようにしましょう。それと比べてユッカ(青年の木)は、南はグアテマラからカナダの西部まで分布し自生しているので、ドラセナと比べればやや寒さに強い植物です。そのため、初めて育てるといふ方には、ドラセナよりもユッカの方がおすすめです。

ちょっと

いっぷく



ひとつき ひとバラ



文：田中 伸枝
(いわみざわ公園バラ園)



第九十七回

ハイブリッドルゴサローズ

F. J. グルーテンドルスト

F. J. Grootendorst

作出国：オランダ

作出者：Goey

作出年：1915年（発表1918年）

ハーディネスゾーン：Z6

繰り返し咲き

交配：R.rugosa rubra × Mme Norbert
Levasseur(Pol)

‘F.J. Grootendorst’は、バラ園の上にあるハイブリッドルゴサコレクションや園路の修景として植栽しています。花色はハマナシのような色ですが、花弁に切れ込みが入った花形はとても特徴的ですので、見たらすぐに分かると思います。カーネーション咲きとよくいいますが、ナデシコ咲きともいわれます。（筆者は後者の言い方のほうが好きです）小輪でたくさんの房となって咲き、ハマナシ様のシワの多く小さい葉が良く茂り、とても健康的で実際に強健です。ハイブリッドルゴサ系統でハマナシの良さがありつつ、珍しい形の良品種だと思います。ただ、良い香りが受け継がれていないのがちょっと残念。樹形は高さ150～200cm、巾120cm以上のシュラブ樹形となっていますが、もっと横張りになる印象です。クライマーのように仕立てても良いとなっていますが、鋭いとげと固い枝、結構扱いが大変そうですね…挑戦してみたい方は是非！交配はハマナシとポリアンサ系統の‘Mme Norbert Levasseur’で、Mme～は‘Crimson Rambler’を交配親に持っています。交配のルーツを辿ると強健さと耐寒性に納得です。耐寒性はゾーン6ですが、スウェーデンバラ会が北部地域に推奨しています。

レアな形のバラなのにどうやら枝変わりがしやすいようで、この品種の仲間が結構出ています。‘Pink Grootendorst’と‘Grootendorst Supreme’はF.J.～の枝変わり品種です。Pink～のほうは若干葉が大きく透明感のあるピンク色をしています。一方、～Supremeは花弁に切れ込みがなく、花色が真紅で葉色がライトグリーン、樹形はかなり横張りです。Supremeは『最高』という意味ですが、何が最高なんだろう？カーネーション咲きのほうが素敵じゃないの？と最初思いましたが、真紅のルゴサって珍しいので発見した時は感動したのでしょうか。さらにさらに、Pink～の枝変わりが‘White Grootendorst’になります。こちらは花弁が少なく半八重咲きです。『F.J.～の枝変わりの枝変わり』ということになります。ややこしいですね…。他にも調べていくと‘Peach Grootendorst’、‘Grootendorst Magenta’も居ました。Peach～は作出やパテントが不明で、英国で2007年に発売しているのが確認されています。～Magentaは、Rosales Vidalという所がアメリカで品種登録をしているようですが、こちらも作出年や交配等が不明で、写真も確認できませんでした。もしかしたら他にも仲間がいるかもしれません。

室内公園「色彩館」からのお願い～困っています！～

当館では植物の引き取りを一切行っておりません。あらかじめご了承くださいませ。
今年に入って、色彩館の前へ鉢植を置き去りにする事案が多発しております。
不要な鉢植えはご自分で処分をお願いいたします。

この時期になると、大きくなりすぎた・殖えすぎたなどの理由で、「植物を引き取ってほしい」という内容のお問合せが急増します。植物もひとつの命です。処分してしまうのが心痛いのであれば、そうならないように樹形や樹高、特性などを考え計画的かつ責任を持って購入・栽培してください。

育て方で分からないことは、当館の緑の相談コーナーへお気軽にお問い合わせください。

今月の市民園芸講座のご案内

これは面白い！



●11月13日(日) 13:00~15:00 多肉植物の寄せ植えをしよう

材料費：2,000円 定員：18名

講師：椿豊さん Green Art 百々屋

●11月26日(土) 13:00~15:00・27日(日) 10:00~12:00

ローズヒップでクリスマスリースをつくろう

材料費：1,000円 定員：各日10名 講師：バラ園スタッフ

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話：0126-25-6111 ホームページ：<http://www.iwamizawa-park.com/>

※材料費のかかる講座は、講師の方の準備等の都合上、開催日3~4日前までにお申込みをお願いいたします。

新型コロナウイルス感染防止策として、以下の点についてご了承ください。

× マスクの着用がない方 × 37.0℃以上の熱がある方

上記に該当する方は受講をご遠慮いただいております。

・連絡なしの欠席・遅刻はお申込みをしたい方のご迷惑となりますので、ご遠慮ください。事前申し込み無しに当日に飛び入り参加される方は、定員制限などの関係から受講をお断りさせていただく場合がございます。

・密集を避ける為、各講座の定員につきましては予告なく変更する場合がございます。

・換気の為、窓・扉を開放いたします。暖かい格好でお越しください。

・密接を避けるため、講座中の私語は謹んでいただきますようお願いいたします。